



# 日刊 勤労千葉

1988.8.30  
No. 2882

国鉄千葉動力車労働組合  
千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電二九三五）六（公衆）〇四七二（22七）〇七

## 東鉄労千葉地本業務部長・来栖を

## 特別優遇（銚子運転区）

八月十九日、十七仕業に乗務していた鉄道労連千葉地本業務部長II銚子運転区の来栖忠敏が三六五Mで千葉駅を発車、東千葉駅で約十メートル、ホームを通過してしまつた。

そして、当局はこの来栖忠敏を「六日間の乗務停止」で乗務させるに至つた。

今日、革マルと一体となつた河野ら不良職制は、勤労千葉の組合員に対しては、全くのイヤガラセで「アゴヒモ・カーテン」等を理由に、「乗務員に言うことを聞かせるためには乗務停止させるに限る」と公言しつつ、ささいなことで長期にわたる乗務停止攻撃をしてきている。勤労千葉津田沼支部長には単に乗務停止だけではなく「反省房」とばかりに、「トイレと食事以外は訓練室から出るな」と監禁し、一カ月以上も乗務停止しているのである。

何よりも、この来栖が事故を起こした数カ月前、同じ銚子運転区の鉄道労連ではない乗務員が同様の事故を起こした時には二十一日間の乗務停止を行っているのだ。

この厳然たる差別に対し、銚子運転区々長・柳沢は、「普段からの行いの違いだ」と聞き直っているのである。

「東鉄労の役員なら事故処分も軽くするのか。」と職場が怒りに燃え上がるのは当然である。

「竹槍袴精神」主義の頑心怖政治で安全を無視するJRの不良職制

この間、勤労千葉は一貫して運転保安確立のために全力を挙げてきた。そして、

その一貫として「気持ちよく働ける職場づくり」を要求してきたのだ。

しかし、当局はこういった要求を一切無視し、「運転保安確立のたたかい」を「企業倒産運動」と悪罵を投げ付ける勤労革マル・鉄道労連と一体となつて、差別主義、精神主義的恐怖政治の全面化で、労働者の切実な要求を無視、抹殺してきたのである。

そして、その結果が運転保安の著しい低下である。昨今の小事故の頻発に対し東京圏運行本部は「非常事態宣言」を発せざるを得ないところまで追込まれ、千葉においては八月十一、十二日の記録的な豪雨と地震によって異常時・災害時に、満足に列車の整理すらできない現実が公になった。

たたかわなければ奴隷される！

こうした現実の一切の責任が運転事故までに組合差別を持ち込むJR当局の姿勢にあることは明らかだ。銚子運転区々長・柳沢の言う来栖の「普段の行い」とは、自分だけでなく、東鉄労の組合員を「小集団」などに動員し、当局にゴマをすることだけなのだ。そもそも来栖は、勤労革マル・鉄道労連のお先棒をかつぎ、乗務員・乗客の人命を守るための運転保安確立のたたかいから大きくかけはなれた、自分さえよければという利己主義運動に専念してきた男であり、東鉄労の組合員からも毛嫌いされているのだ。

われわれは、運転事故にまで組合差別をもち込むJRの労務政策を打ち破るためにストライキも辞さずたたかいぬかなくてはならない。

# 職制不良をもちこむ、差別にまで、運転事故

9・2映画「激」上映会  
九月二日 十八時？ 千葉市民会館

9・5多岐路  
千葉地裁15時集合

9・11国鉄労仍着集会  
東京南都労政会館 十三時？